令和 2~3(2020~2021)年度

神奈川県聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業

「しゅわまる」活動報告会

報告書



一般社団法人 神奈川県聴覚障害者連盟

はじめに

令和4(2022)年3月26日(土) 神奈川県藤沢市役所分庁舎に於いて神奈川県聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業「しゅわまる」報告会を開催しました。これは、令和2~3(2020~2021)年度の「しゅわまる」の活動を振り返り、神奈川県内の聞こえない・聞こえにくい子どもたちの未来をたくさんの方とともに考えていくことを目的としたものです。

当日は新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、オンライン配信を併用して開催いたしました。困難な状況の中、会場での参加・オンライン視聴を合計して120名のご参加をいただきました。聞こえない・聞こえにくい子どもたちの手話獲得に関わる問題について、たくさんの方が関心を寄せてくださっていることを改めて感じています。

この報告書は、当日の報告内容に加筆修正し、再編成したものです。ぜひたくさんの 方に目を通していただき、この活動へのご理解・ご協力を賜れれば幸いです。

一般社団法人 神奈川県聴覚障害者連盟

2021年度 しゅわまる運営委員会

目次

挨	: 拶	4
:	河原雅浩(一般社団法人神奈川県聴覚障害者連盟理事長)	4
	水町友治(神奈川県福祉子どもみらい局福祉部長)	5
	早瀬憲太郎(しゅわまる代表)	7
報	7. 告	9
;	垣中直也(神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課長)	9
;	松本大輔(しゅわまる運営委員)	12
	しゅわまる交流会についてのアンケート報告	16
ት	ークセッション	28
	古屋菜穂子(しゅわまる参加者・保護者)	28
;	松本大輔(横浜市立ろう特別支援学校教諭・しゅわまる運営委員)	30
;	菅原仙子(東京都立葛飾ろう特別支援学校乳幼児相談担当教諭・しゅわまる運営委員)	32
	寄林智(横浜市立ろう特別支援学校副校長・しゅわまる運営委員)	34
	古石篤子(慶應義塾大学名誉教授・しゅわまる運営委員)	36
	高濱佑月楓(しゅわまるスタッフ)	38
ゲ	゛ストコメント	40
:	河﨑佳子(神戸大学教授・大阪府乳幼児期手話言語獲得支援事業「こめっこ」アドバイザー)	40
箵	料集	43

1. しゅわまる交流会についてのアンケート	43
2.しゅわまる活動実施状況	46

※ 本報告書に記載された肩書は報告会開催時のものです。

挨拶

河原雅浩 (一般社団法人神奈川県聴覚障害者連盟理事長)

本日はしゅわまる活動報告会にご参加いただき、ありがとうございます。

手話はろう者が使い、育ててきた言語です。ろう者にとって、相手の言っていることがすぐに理解でき、自分の気持ちをスムーズに伝えることができる言語です。手話を使うことによって、周囲のさまざまな人とのかかわりを築くことができます。つまり、聞こえない、聞こえにくい人にとって、一番自然な言語なのです。ただ、残念なことに、聞こえない、聞こえにくいこどものほとんどは、聞こえる親から生まれます。ですので、当然、両親は手話を知りません。

聞こえる子どもの場合、両親や兄弟から話しかけられることで、言葉のシャワーを浴びて育ち、自然に音声言語を身に付けることができます。しかし、聞こえない、聞こえにくい子どもたちはそれができませんので、そのような子どもたちが手話に触れ、手話を自然に獲得できる環境を作ることが必要です。このような環境を作るための活動を支援してほしいと、繰り返し県に要望してまいりました。この要望に対する県のご理解と、議員のみなさまのご協力のおかげで、「しゅわまる」の活動をスタートできたことを大変うれしく思っております。

「しゅわまる」の活動がスタートしまだ2年足らず、内容も至らないところが多いと 思います。今後とも、県民の皆様のご理解をいただきながら、一生懸命取り組んでまい ります。この「しゅわまる」の活動を発展させ、ゆくゆくは、県内の聞こえない、聞こ えにくいすべての子どもたちが、自然に手話を身に付けることができる環境を作ってい きたいと考えております。ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。本日はよろしくお 願いいたします。

水町友治(神奈川県福祉子どもみらい局福祉部長)

皆さん、こんにちは。神奈川県福祉子どもみらい局福祉部長の水町です。本日は大変 お忙しい中、「しゅわまる報告会」にご参加いただき、ありがとうございます。

この「しゅわまる」の活動は、耳の聞こえにくい子どもたちが、保護者と一緒にできるだけ早く手話を獲得する機会を提供することを目的として、令和2年度から始めた事業です。この2年間、新型コロナウイルス感染症感染拡大という難しい状況の中ではありましたが、オンラインも活用し、様々な方々の御協力をいただきながら、「しゅわまる」を継続して開催することができました。本日の報告会は、これまでの「しゅわまる」の活動の締めくくりとなるものです。

先日県議会において、「しゅわまる」を来年度も継続して実施していくための予算の 承認をいただきました。来年度は3年目に入ります。これまで以上に多くの皆様にこの 事業を知っていただきたい、より多くの皆様にご利用いただきたいと考えています。内 容も、皆様方のご意見をいただいて、よりよいものにしていきたいと考えています。今 日の報告会もそのための一つの契機になると期待しています。

県では今年度、手話言語に関わる様々な取り組みの基礎となる「神奈川県手話言語条例」の見直しと「神奈川県手話推進計画」の改定作業を進めてきました。「神奈川県手話言語条例」は今年度の見直し結果を踏まえ、来年度に具体的な対応を予定しており、当事者の皆様の間で手話が受け継がれていくことの必要性について盛り込んでいくことを考えています。「神奈川県手話推進計画」は、ろう児の手話習得機会の充実や、手話やろう者への理解を深める取り組みの推進を改定のポイントとし、3月中に改定を予定しております。改定後は内容をホームページなどで公開します。

今後も、当事者の皆様、ご家族の皆様、関係団体の皆様と意見交換を行いながら、連携して様々な手話に関わる取り組みを進めていきたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

本日の報告会が、御参加の皆様方にとっても有意義な会となりますことを祈念しています。どうぞよろしくお願いいたします。

早瀬憲太郎 (しゅわまる代表)

こんにちは。2021年度、しゅわまるの代表を務めました早瀬憲太郎です。

しゅわまるは、0歳~6歳の子どもたちに手話言語獲得の場を提供することを目的とし、2020年11月に初回の活動が開催されました。当日は子ども11人、保護者14人、スタッフも含めると総勢50人以上での活動となりました。初めて手話を見た子どもたちは、開始当初は不安そうな表情でしたが、時間がたつにつれて笑顔に変わり、素晴らしいスタートを切ることができました。

しかし、早々に新型コロナウイルス蔓延という壁に阻まれ、対面での活動はストップし、オンライン配信や事前収録した映像配信などに活動を切り替えることを余儀なくされました。本来なら、集合し、対面で開催するのが一番です。仮に、子どもたちや保護者と、ろう者スタッフとの間に、しっかりした関係ができている状態であったら、例えオンラインであっても子どもたちは画面の向こうにいるスタッフに親しみを覚え、興味を持って参加できたかもしれません。ですが残念ながら、子どもたちは画面上のろう者を認識できず、集中することもできなかったことでしょう。

スタッフ間で協議を重ねた結果、もしオンライン開催を止めてしまえば、子どもたちの環境から手話が全くなくなってしまうことになる。活動を継続することで、ほんの少しでもいいから子どもたちに手話を届けたい、コロナ収束後には対面型で開催しようと決め、続けてきました。結果、2020年度は7回の活動を実施し、うち対面型は1回のみでした。

2021 年度こそ対面で開催したかったのですがまだ難しく、全19回の開催のうち対面型は7回となりました。本日の報告会と合わせ、計20回の開催になります。

思うような活動は出来ていませんが、しゅわまるでの活動によって、お子さんも保護者も楽しく手話に触れられていること、家庭でも少しずつ手話を取り入れてコミュニケーションしていることなどがアンケートから伝わってきました。スタッフ一同、大変うれしく思っています。現在のしゅわまるは、例えて言うなら、種が芽吹き始めたところではないでしょうか。もし対面開催を重ねられていれば、その芽はぐんぐん育ったことでしょう。風雨にさらされる厳しい環境下で、思うように伸びることができないけれど、そんな中でも少しずつ、手話の花は咲いてきています。そういう意味でも、本当に大切な活動だと感じています。

2022 年度に向けて、今回の報告会での議論や、アンケートでいただいたご意見などを踏まえ、さらに大きな手話の花が開くよう、お子さんたちが手話を獲得し、ろう者としての誇りをもって自分の人生を切り開いていけるよう、みなさまと力をあわせてしゅわまるの活動を続けてまいります。以上、代表の挨拶とさせていただきます。

報告

垣中直也(神奈川県福祉子どもみらい局福祉部地域福祉課長)

皆さん、こんにちは。地域福祉課長の垣中と申します。よろしくお願いします。私からは、県の取組みについてご説明いたします。

手話は聴覚に障がいのある方が意思を伝えるための大切な言語であることは、皆様よくご存じのことかと思いますが、一方で、まだ手話のことを知らない方が多い現状にあります。こうした状況を踏まえ、手話を多くの方に知ってもらうために、神奈川県では、平成27年4月に「神奈川県手話言語条例」を施行しました。

本条例では、「ろう者とろう者以外の者が相互にその人格と個性を尊重し合いながら 共生することのできる地域社会の実現のために手話の普及等を推進すること」を基本理 念として定めています。この基本理念を基に、条例において手話の普及等に関する県の 責務や、市町村との連携・協力に関する努力義務、県民及び事業者の役割について定め ています。また、この基本理念にのっとり、手話の普及に関する計画を策定し、これを 実施しなければならないとも定めています。なお、本条例については、令和4年度中に 具体的な見直し内容の検討を予定しています。

県では、この大切な言語である手話の普及などを推進していくため、条例の規定に基づき、平成28年度から5年間を計画期間とする「神奈川県手話推進計画」を策定しました。この3月中に令和4年度から令和8年度までの5年間を計画期間とする新しい計画に改定予定です。(新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、改定時期が当初予定より1年延期されました。)

改定手話推進計画は、聴覚障害の方や関係団体、有識者などからなる手話言語普及推 進協議会で議論を重ねながら策定作業を進めてまいりました。当初策定の計画に引き続 き、条例の考え方に基づいて、①手話の理解を広げること、②手話で学ぶしくみを充実すること、③手話を使いやすい環境をつくること、という基本的な3つの方向性を定め、 取組みを整理しています。

主な取組みをご紹介します。

- ① 手話の理解を広げること
 - ・市町村と連携した県民向け手話講習会の開催
 - ・手話普及推進イベントの開催
- ② 手話で学ぶしくみを充実すること
 - ・手話学習用冊子の作成・配布
 - ・ろう児への手話獲得機会の提供
- ③ 手話を使いやすい環境をつくること。
 - ・県機関等における遠隔手話通訳サービスの実施
 - ・県主催イベント等への手話通訳者の配置

改定計画では、この3つの取組みのうち、「②手話で学ぶしくみの充実」において、「施策6 ろう児及び保護者に対する乳幼児期からの手話の習得機会の提供、支援」を位置付けており、「聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業」、すなわち「しゅわまる」の取組はこの施策に位置付けられるものです。

それでは、本日のテーマである、「聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業」について ご説明します。この事業は、子どもたちの母語獲得の重要性や、聴覚障がいの乳幼児(聞 こえない ・ 聞こえにくい子ども) の母語獲得の困難性といった課題を解決するため に、聴覚障がいの乳幼児がその保護者又は家族とともに手話を獲得することのできる機 会を確保することを目的に実施しています。また、この事業は「乳幼児及び保護者等を 対象として、手話やろう者に関する理解を深めるための機会の提供」、「大人のろう者による、流暢な手話表現に触れることのできる環境を整え、母語となる手話言語の獲得の支援」を担う事業であり、その具体的な取組みが【手話交流会「しゅわまる」】です。

「しゅわまる」では、手話交流会「しゅわまるタイム」、保護者の交流の場である「手話サロン」を実施しています。県から神奈川県聴覚障害者連盟に委託しており、スタッフの皆様は毎回工夫や趣向を凝らして実施してくださっています。令和2年度の開始から、オンライン開催も交え計26回の開催となりました。新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催を余儀なくされるなど、ご苦労が多かったと承知しています。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。引き続き、この「しゅわまる」を通じて、さらに多くの子どもたちが手話に触れ、聞こえる子どもたち、聞こえない、聞こえにくい子どもたちの豊かなコミュニケーションが図られるよう、今後も様々な工夫をしながら取組を進めてまいります。ご清聴ありがとうございました。

松本大輔 (しゅわまる運営委員)

「しゅわまる」の具体的な活動についてご紹介します。

毎回、【しゅわまるタイム】と【手話サロン】の2つの活動を柱として企画、実施しています。どちらも、ろうスタッフが全体進行や参加したこどもたちのサポートを担います。また、通訳スタッフを配置し、必要に応じて保護者への支援を行います。

ここでは、それぞれの活動の目的や内容についてご紹介します。

○しゅわまるタイム(50分)

プログラムに合わせ、ろうスタッフが進行します。スライドや手作りの教材を駆使して、こどもたちが楽しく手話とふれあえる時間を提供します。子どもたちのそばにもスタッフを配置し、一人一人に目を配ります。主なプログラムをご紹介します。

- ・「名前呼び」:参加している子ども一人一人の写真を提示し、手話で名前を呼び、 返事を確認し、挨拶する。一人一人と挨拶をすることで、子どもたちの参加意識を 引き出す。
- ・「シルエットクイズ」: 黒一色の影絵のようなイラストを提示し、子どもたちと「これはなんだろう?」等のやり取りを楽しむ。



- 例)ピーマンのシルエット。これは何?好き?嫌い?などと手話で問いかけ、会話 の幅を広げる。
- ・「手遊び」: リズムに合わせて手を動かすことで、手話の形や動きをこどもたちと 共有する。



例) パン屋さんをテーマにした手遊びの様子

・「体操」:パンダ体操、動物体操などの体操を保護者も一緒に楽しく行う。



例)動物体操。動物の特徴を捉えた動きを取り入れている。

- ・「しゅわしゅわしゃわー」: テーマに合わせて、事前に収録した手話表現をスクリーンに投影する。こどもたちがたくさんの手話表現を見る機会を作る。
- ・「絵本の手話がたり」:手話で絵本を楽しむ。
- ・「作って遊ぼう」: ろうスタッフの説明に合わせて、保護者と一緒に工作を楽しむ。 季節感のあるテーマを取り入れることで、こどもたちが季節の行事や季節を感じる物事 を体験すること、その体験をきっかけとして家庭内でのコミュニケーションが深まるこ とを目指す。
- 例)「節分」 鬼の面を作成。豆まきを体験する。

「梅雨」 傘を作成。保護者がスズランテープで雨を模したものを持ち、子どもが 傘をさして雨傘ごっこを楽しむ。

「果物狩り」 紙を丸めて果物を作成。紐にぶら下げて、果物狩りごっこを楽しむ。

○「しゅわサロン」(60分)

参加した保護者を対象に、ほかの保護者やスタッフとの交流、情報交換、学習などを 目的としています。子どもたちは基本的に別室でスタッフと過ごし、保護者同志がゆっ くりと話ができる環境を作っています。

これまでに取り上げた内容をご紹介します。

・その日の「しゅわまるタイム」で行った遊びの目的について、有識者より解説する

- ・成人ろう者の体験談を聞く
- ・ご家庭で子どもの名前を手話で呼ぶために「サインネーム」を考える
- ・子育てについて各家庭で行っていることなどを保護者同士で情報交換する
- ・手話の学習



しゅわまる交流会についてのアンケート報告

~数字をどう読み解き、今後に繋げるか~

河原雅浩・古石篤子

第1回報告会開催に当たり、2020年度と2021年度に開催されたしゅわまる交流会について保護者の方々のご意見を伺い、今後の活動の参考にしたいと考えました。アンケートは2022年2月にオンラインで行い、10人から回答をいただきました。アンケートの全文は「資料」をご覧ください。

ちなみに、2年間のしゅわまる交流会への参加のご家族の総数は24家族(聴覚障がいのお子さんの総数24人)でした。以下、順を追ってコメントいたします。

I. 聴覚障がいのお子さんとご家族について

1. 聴覚障がいのお子さんについて

(1) 年齢

- 聴覚障がいのお子さんの年齢は、アンケートにご回答くださったご家族の 10 人については、2021 年 4 月 1 日現在で 2 歳 (6 名)、4 歳 (2 名)、5 歳 (2 名)でした。この子どもたちは 3 月末の報告会時点では、それぞれ 3 歳、5 歳、6 歳となっています。
 - ◆ 子どもの第一言語(L1)獲得の適期は0~3、4歳であることを考えると、その 大切な時期にしゅわまるに繋がってくれて良かったと思います。

- ◆ アンケートとは別に、交流会参加総数 24 家族を視野に入れると、報告会の 2022 年 3 月時点では該当する子どもの年齢と人数は、0歳(1名)、1歳(1名)、2歳(2名)、3歳(10名)、4歳(5名)、5歳(2名)、6歳(2名)、不明(1名)となっています。
- ◆ 今後、子どもの発達年齢を考慮して、0~2歳/3歳~6歳のように、グループを2つに分けて活動を行うことも真剣に考えるべき時期に来ているように思えます。(II-6にもそのような希望が出されています。)

(2) 教育機関

- ろう学校の乳幼児相談(6名)が最も多くなっていますが、その内4名はそれと併せて「難聴ではない療育機関」「地域の療育センター」「保育園・病院ST」「発達支援教室」にも通っています。
- 上記6名以外は、「保育園」(2名)、「保育園・療育機関(難聴)」(1名)、 「ろう学校幼稚部」(1名)でした。
 - ◆ 保育園のみに通っているのは補聴器や人工内耳装用のお子さんですが、問題が ない環境かどうかをフォローする必要があるでしょう。

(3) 補聴の方法

- 補聴の方法は補聴器(5名)/人工内耳(5名)です。
- 人工内耳は2歳(3名)、4歳(1名)、5歳(1名)です。

2. きょうだいについて

- 「きょうだいがいる」(「1人いる」5名、「2人いる」2名)、「いない」(3名)です。
- きょうだいがいる場合、そのきょうだいもしゅわまるに参加しているのは、「きょうだいが2人とも参加している」が1名、「きょうだい1名が参加している」が4 名です。
 - ◆ 家庭内で聴覚障がい児が常に接するのは保護者やきょうだいなので、きょうだいも手話を覚えて家庭内で手話を使ってほしいと思います。乳幼児の場合、言語獲得に家族は決定的に重要な役割を果たします。

3. 家族に聴覚障がい者がいますか

- 「いる」(父親)という答えが1名でした。

4. 聴覚障がいの知人・友人はいますか

- 「いる」(4名)、「いない」(6名)。
 - ◆ 「いる」の内訳は、「同じ疾患の友だち」「学校や療育つながりのろう家族や子どもの友だち」「乳幼児相談の時のろう学校の友だち」「病院が同じで、言語聴覚士の先生が紹介してくれた」というように、学校や病院経由で知り合った知人・友人です。一方、学校や病院とは全く関係のないろう成人と知り合う機会は少ないようです。そういう意味でも、しゅわまる交流会という場が、少しはご家族の世界を広げるのに役立ってもらえたら嬉しいです。

Ⅱ. しゅわまる活動(しゅわまるタイム・しゅわサロン)について

1. しゅわまる参加のきっかけ

- ろう学校で先生から紹介されたり、ろう学校でチラシを見たり、もらったりしたケースが最も多いようです(7名)。
 - ◆ チラシの効果があったといえる反面、もっとインターネットを活用した周知の 方法も検討していきたいと思います。幸いかねてより懸案のホームページもで きましたので、活用していきます。

2. 参加にあたって期待したこと

- 聞こえない子どもを持つ他の家族との交流や、ろう者との交流への期待が大きく(6名)、また、手話を学ぶ、手話の環境に慣れることに対する期待も大きい(5名)ことが見てとれます。その他、人工内耳や補聴器などについての情報獲得にも期待が見られます(2名)。

3. 参加の回数

- 対面の参加:10回(1名)、8回(1名)、7回(1名)、6回(2名)、5回(2名)、4回(2名)、1回(1名)。
 - ◆ 2年度を通じて対面交流会は全8回の開催でしたので、「10回」という回答は 勘違いかと思われます。
- オンライン参加:10回(1名)、6回(1名)、5回(3名)、4回(1名)、3回(3名)、0回(1名)。

◆ オンラインで10回参加のご家族は対面でも8回の参加がありました。ただ、対面で7回の参加があったご家族はオンライン参加は0回でした。かと思うと、対面参加は1回なのにオンライン参加は5回というご家族もあり、ご家庭のネット環境やお子さんの年齢や向き不向き等々によって、対面が良いかオンラインが良いかは一概には言えず、今後は両方の良いところを取り入れて発展させていきたいと考えます。

4. 開催頻度(月2回)について

- 「ちょうどよい」(6名)/「少ない」(4名)
 - ◆ 現在は対面は月1回で、他はオンラインで行っているので、「少ない」と思われるご家族もあるのかもしれません。

5. オンライン開催についての感想

- オンラインでは子どもが集中できないので、やはり対面の方が良いという意見が圧 倒的に多く見られました。
- オンラインの設備が無くて見ることのできなかった家族もありました。また、オン ラインでは、パターン化すると飽きやすくなるという危険も指摘されました。
- とはいえ、親にとっては「しゅわサロン」などがユーチューブ配信の場合は、自分 に都合の良い時間に見ることができてよかったというご意見もありました。それか ら、遠方の家族でも参加しやすいというメリットも否定できません。
 - ◆ 今後は、上記 II-3 でも述べましたが、対面とオンラインのそれぞれのメリット を活かして開催方法を考える必要があります。また、オンラインでもリアルタ

イムと動画配信とでは異なるので、これもそれぞれの長所を生かした利用方法 を考えていきたいと思います。

6. しゅわまる活動(しゅわまるタイム・しゅわサロン)で取り入れてほしい内容

- しゅわまるタイムについて:
 - ▶ 「手話の歌、手遊びなど、季節に合わせた歌を手話で表せたら楽しそう。」
 - ▶ 「子どもが皆の前で発言できる機会を作ってほしい。(発表を通じて自信をつけさせたい。)」
 - ▶ 「未就学児も年齢の幅があるので、乳幼児とは別に、幼稚園中学年以上に向けた活動も取り入れてほしい。」
 - ◆ 大阪府の「こめっこ」は、年齢によって2つのグループに分けて活動を行っているので、「こめっこ」から学べることがありそうです。

- しゅわサロンについて:

- ▶ 手話学習の希望がとても強いことがわかりました。
- ▶ ろう者(小中高の子どもも含めて)や、先輩保護者の体験談を聞きたいという 要望も大変強いこともわかります。
- ◆ 自分の子どもの将来が見通せず不安を抱えているのだと思いますので、先輩の 話を聞き、夢や希望を持てる機会をたくさん作っていくのもしゅわまるの使命 のひとつでしょう。

III. 手話使用について

- 1. 家族の中で手話を習っている人はいますか。
- 「いる」(6名)/「いない」(4名)
- 習っているのは、「母親」(4名)、「母親と父親」(1名)、「祖母」(1名)
 - ◆ 母親が多く父親が少ないのは残念ですが、仕事が忙しくて時間を割きにくいの かもしれません。
- 手話を習っている6名の内2名にとっては、しゅわまるが手話を習い始めたきっかけになっていますが、他の4名はそうではありません。しゅわまる以前から手話を学び始めていたということが推測されます。
- 2. 3. 4. しゅわまるに参加して、お子さん/保護者の方/きょうだいは手話を使うことが増 えましたか。
- 子ども:「増えた」(4名)、「変わらない」(5名)、「減った」(1名)
- 保護者:「増えた」(7名)、「変わらない」(3名)
- きょうだい:「増えた」(5名)、「変わらない」(3名)、「該当なし」(2名)
 - ◆ この回答を比較して最も嬉しいのは、保護者やきょうだい、特に保護者の7割の方が、しゅわまるに参加して手話を使うことが増えたと答えていらっしゃることです。お子さんはまだ小さいので表出は少ないかもしれませんが、お母さんや他の家族のメンバーが手話を使うことによって子どもも使い始めることを期待したいと思います。

- 5. しゅわまるに参加して、家族でコミュニケーションの機会は増えましたか。
- 「増えた」(7名)、「変わらない」(3名)
 - ◆ この回答もとても嬉しいものです。しゅわまるが話のきっかけになったり、また手話があることで話しやすい雰囲気ができたりしたのでしょうか。家族の中でどんな些細なことでも、日頃から手話を使って話しかけ、お子さんと言葉のやりとりをする環境が大切です。しゅわまるの存在が家庭内コミュニケーションを活性化させるのに役立っていることがこの回答でわかります。
- 6. しゅわまるに参加して、手話の魅力や意義を感じることができるようになりましたか。
- 「感じる」(10名)、「変わらない」(0名)、「感じない」(0名)
 - ◆ 手話に対する見方が良い方向に変わり、全員が手話の魅力や意義を感じてくだ さっているので、しゅわまるの存在意義を感じさせてくれる回答です。

IV. その他

- 1. しゅわまるに参加してお子さんに何か変化はありましたか。
- 「あった」(3名)、「特にない」(8名)
 - ◆ 「特にない」という回答が多いのですが、まだ始まったばかりなので、これから内面の変化が表に出てくるのではないかと思われます。
 - ◆ 「あった」という回答は、具体的には次のようなものです。3名とはいえ、無視できない回答ですので引用します。

- 「手話が少しできるようになった。」
- ▶ 「手話が身近になったのか、前より身振り手振りがあると、よりコミュニケーションが取りやすくなった。」
- ▶ 「同じ境遇の子と会えることや、オモチャで遊べるのも嬉しいと言ってます。」
- 2. しゅわまるに参加して保護者ご自身に何か変化はありましたか。
- 「あった」(10名)、「特にない」(0名)
 - ◆ この回答は特筆すべきものです。子どもよりも、保護者自身に大きな変化があったことがわかります。全員が「変化があった」と答えています!
 - ◆ その変化の内容はすべてひとつひとつ傾聴に値します。それらはひと言で言えば、手話に対する心理的なバリアが無くなり、聞えない子どもにとって手話が必要であるということを理解し、一緒に学んでいこうという姿勢がはっきり出てきたということでしょうか。また、適切な障がい認識をもち、子どもにとってロールモデルとしてのろう成人との触れ合いが重要であるという理解も生まれたように思えます。
- 以下、保護者の声をそのまま列挙します。
 - 「手話をもっとまなびたい、こどもとコミュニケーションとりたいと思った。」
 - ▶ 「子どもにもっと手話が必要なことや、身近にろう者のロールモデルがいることの重要性を強く感じた。」
 - ▶ 「家族みんなで手話が身近になり、テレビで手話の番組を観たり、簡単な手話をみんなでやるようになった。」

- ▶ 「しゅわまるではイベント事や季節の物などを取り上げた活動内容が多く、それまであまり意識していませんでしたが、その時期しかないイベント事を実際に体験させ、更に手話で表現・会話する事できっと本人の記憶にも残るので、一緒に楽しみながら丁寧に教えていこうと思いました。」
- ▶ 「手話を使いたくなりました。」
- ▶ 「小学校進学に向けて、手話の力を再確認しろう学校への進学に迷いがなくなった。」
- ▶ 「手話の表現の意味を知ったり、保護者の方との交流ができる。」
- ▶ 「手話の必要性を感じ、子供に対してできるだけ音声プラス手話を使うよう意識が高まった。また、概念を伝えられるようしゅわまるで教わったことを実践してみたり、いろいろ工夫するようになった。」
- ▶ 「手話が身近なものになった。また、難聴は不幸、不便、辛いなどマイナスなイメージが、少し変わったように思います。」
- ▶ 「手話を採り入れるようになった。|
- 3. しゅわまるに対しての感想やご希望をお書きください。どのようなことでもかまいません。
 - ◆ しゅわまるは「手話、聞えない子ども、その家族、ろう者」とのつながりを作ってくれ、聞えない子どもとの接し方のヒントも多くもらえて大変貴重な場所であるという認識は共通しています。
 - ◆ 対面の交流が待ち遠しいけれど、オンライン等の配信にも感謝していることも わかります。
 - ◆ しゅわまるの開催場所が複数あると良いという希望もあります。
 - ◆ 当事者の話をもっと聞きたいという希望も強くあります。一般に情報が限られていて、聴者にとってはろう者の世界は見えにくいのです。

- 以下、貴重な保護者の声をそのまま列挙します。
 - ▶ 「ろう学校の乳幼児相談も対面がほとんどかなわず、、しゅわまるの活動も対面かつマスクなしで、交流したいと本当に思います。コロナが憎いです、、そんな中、オンラインやユーチューブ配信など工夫していただいて本当に感謝しています。今後も宜しくお願いします。」
 - ▶ 「しゅわまるは、ろう学校に通っていないと孤立しがちな難聴児家族にとって、 ろう者や他の難聴児家族と関わったり、専門家のアドバイスを得られたりする 貴重な場所です。今後ますます充実した活動が続くことを期待しています。」
 - ▶ 「手話、難聴児、家族の繋がりを作ってくれる大切な場所だと思っています。 なので、これからも続いてほしいし、参加したいです。
 - 場所が1ヶ所だけでなく、いろいろな所でやってもらえたらなーと思います。|
 - ▶ 「普段家以外で手話環境がない子供にとって、手話に触れられる貴重な場なので、今後も参加させていただきたいと思っています。 |
 - 「いつもありがとうございます!コロナが早く落ち着いて、対面になってほしい。」
 - ▶ 「コロナ禍でなかなか難しいと思いますが、交流を持てて嬉しく思っています。 聴覚障害者の集まりがこの先も増えて続いていく事を願います。ろう者の先生 方の話しももっと聞きたいです。」
 - ▶ 「聞こえる親にとって聞こえない子供をどう育てていけば良いか分からないことが多く、不安もある中で、しゅわまるの場で子供との接し方のヒントをたくさんもらえているので、参加してよかったと思う。同じ立場の親御さんでも会場から離れていたり、兄弟など家庭の状況からなかなか参加できない知人もいるので、簡単ではないと思うが、しゅわまるのような活動がもっと増えて支

援の幅が広がるといいなと感じた。これからもしゅわまるに参加したいと思っており、子供の変化も楽しみにしている。」

以上。

トークセッション

~しゅわまるに求められているもの、めざしていくもの~

古屋菜穂子 (しゅわまる参加者・保護者)

しゅわまるには、初回から参加しています。娘は3歳で人工内耳装用です。

■しゅわまるに参加して感じたこと

私自身は聴者で、周囲にも聞こえない人がいなかったため、自分のこどもが聞こえないと分かった時には、聞こえない世界は未知の世界でしたので、すごく大きな不安を感じていました。しゅわまるに参加し、たくさんの情報を得たことで、その不安が解消されていきました。しゅわまるでたくさんのろう者と出会い、直接話を伺ったことがとても大きかったです。娘にも、将来いろんな選択肢があることを感じることができたし、それまで将来に不安を感じていましたが、自信をもって娘に接することができるようになり、娘と接することを楽しめるようになりました。しゅわまるに参加してよかったと思っています。

■家族の変化

娘は人工内耳を装用していて、装用後は音声でコミュニケーションをとれるようになってきましたが、装用していないときはほぼ通じない状況だったので、手話が必要なんだな、と何となく思っている状態でした。そのようなときにしゅわまるに参加したことで、娘にとって手話は必要なんだということが確信でき、娘が言葉を獲得して、(ものごとを)理解していくためには手話も必要だと実感しました。しゅわまるに参加したことによる娘の変化は、まだ実感できていませんが、物怖じしない性格もあり、毎回楽しく参加できています。

娘の手話については、人工内耳装用前は音声を認識できていなかったこともあり、私がわかる範囲での手話を使うと、それを理解したり、自分でも手を動かしたりしていました。その後、音声を認識するようになってからは、音声中心のコミュニケーションに移行し、手話をあまり使わなくなっていました。しかし最近は、音声と一緒に手話をする、手を動かすことがまた増えてきており、とても嬉しく感じています。しゅわまるの中でも、しゅわサロンで「保護者が手話を使うことが大事。ホームサインでもいいから手を動かして子どもとコミュニケーションとることが重要」と聞いたため、手話を使い続けた結果、娘も自然に手話を使い始めたのだと思います。そんなこともあって、私としては手話に対するモチベーションが上がってきています。

■しゅわまるへの期待

聞こえる保護者にとって、情報を得られる、ろう者と出会える、わからないことを聞くことができる場はとても必要だと思っているので、これからもそんな場をたくさん提供してほしいです。しゅわまるは就学前までのこどもが対象だと思いますが、就学後も、情報を得たり、ろう者と繋がれる場があったら嬉しいです

松本大輔(横浜市立ろう特別支援学校教諭・しゅわまる運営委員)

しゅわまるには、運営委員として、またスタッフとして関わってきました。肩書にはは「横浜市立ろう特別支援学校教諭」、となっていますが、ここではろう当事者の一人としてお話ししたいと思います。

アンケートの回答の中に、「保護者が今までろう者と会った経験がない」というものがありました。私もそうでした。両親は聴者なので、小さい頃は成人のろう者と会ったことはありませんでした。そのため「20歳になったら自分は消えてしまうのではないか」と思っていたのです。

手話の必要性、ろう者のロールモデルの必要性についての話が先ほどありました。手話は日本語と同じく「言語」なのだと感じられることは、ろう者としての自己肯定感につながると考えています。

子どもの頃、近所にろうの夫婦が営む理容店があり、私はそこに散髪に通っていました。ご主人は、お客さんとは筆談でやりとりしていました。でも、奥さんと話すときは 手話を使っていました。また、その家の子どもとやり取りする様子も見かけました。今 思えば、あれが、数少ない成人ろう者との出会いでした。

私にとって、日本語は勉強して身に付いたものです。みなさんが入試対策で英語を勉強するようなものです。英語の勉強をするのは大学受験に合格するためだとすると、私が日本語を覚えたのは「聞こえる人になるため」でした。

以前は、私の中で、手話よりも日本語のほうが上位にありました。まず日本語があり、 その下に手話がある、という位置づけです。聞こえない自分は、努力して聞こえる人の ようにならなくてはいけない、という考えでいたので、補聴器を外し、聞こえるふりを したこともありました。 その後、紆余曲折を経て、手話は日本語と同じ「言語」なのだ、手話という言語を使う自分は、このままでかまわないんだ、という思いに至りました。ここに至るまで、たくさんの苦悩があり、たくさんの人との出会いがありました。だからこそ、幼少期に手話と出会える場、ロールモデルとしての成人ろう者に出会える場の重要性を痛感します。これらが自己肯定感を育むことにつながるのではないかと思います。

菅原仙子(東京都立葛飾ろう特別支援学校乳幼児相談担当教諭・しゅわまる運営委員)

乳幼児教育相談に携わる立場からお話しします。学校では、親御さんたちに手話を学んでもらい、0歳の時から家庭に手話の言語環境を整え、その中で子供たちが自然に手話を獲得できるようにすることが大切だと伝えています。当事者(聞こえない人)に早期から出会うことも大事です。保護者が早期に当事者と出会うことで、子供の将来に見通しがもてて、安心して、前向きに子育てができるようになっていきます。

私は20年前までは聴覚口話法による教育をしてきましたが、たくさんの不足な支援があったことに気づき、見直しをして今に至っています。かつては、「手話は後から学べばいい」と考えていました。その結果、当時の教え子には「お茶の間の孤独」、つまり音声言語だけの聞こえる家族の中で会話に入れないという問題が生じました。さらに、社会に出てから子供が手話を身に付けても、高齢になった親御さんはすでに手話が覚えられず、双方がもどかしいコミュニケーションの状況に置かれました。将来を見通した家族支援が必要だと、かつての教え子たちから教えられました。実際に今、早期から親御さんが手話を学び、手話で会話をしながら親子が育っていく中で、親御さん自身が手話の大切さを実感しています。お子さんも、「自分は手話という言語を使う人間なんだ」ということを自覚して育つので、聞こえない人間としてのアイデンティティが確立していきます。何より、自分にとって100%伝え合える言語を持っているということが、自己肯定感にもつながるということも、私は教え子や親御さんから教えていただき、今に至ります。

今回しゅわまるのアンケートを通して「手話の魅力を感じられた」という回答を100%いただけました。「もっと手話を使いたい、学びたい」という声がたくさん上がったことは本当にうれしいことでした。「当事者と早くから出会ったことで、障害に対するマイナスイメージが変わった」という回答もありました。また、「小学部からは、手話のあるろう学校に進路を決めた」という回答もあり、しゅわまるが進路にまで影響

を与えたということがわかりました。手話の意義を伝えられたことが一番の成果だった と思っています。

一方で課題も見えてきました。コロナ禍でも、何とか手話の環境を親御さん、お子さんに保障したいという思いでオンライン配信を続けましたが、小さいお子さんにとって画面越しの活動を集中して見ることは難しいという結果が見えてきました。今後は、手あそびだけ、制作だけ、絵本だけというように、テーマを絞った形で5~10分の配信とすれば、お子さんたちが自分の興味関心に合わせて視聴できるのではないかと思いました。このような配慮をすることで、日常生活の中で手話が目に触れるような環境を提供できて、能動的に子供たちが視聴しながら手話に触れられたらいいなと思っています。

寄林智(横浜市立ろう特別支援学校副校長・しゅわまる運営委員)

横浜市立ろう特別支援学校副校長の寄林です。現在、本校の在校生は、全校幼児児童生徒の約半数が人工内耳を装用しています。幼稚部に限ってみると 7-8 割が人工内耳装用児で、多くの子が音声も使ってコミュニケーションをしています。けれども、そういった子どもたちにとっても手話は大事なものです。子どもたちは、それぞれその年齢に応じて話したいこと、伝えたいことがあり、知りたいことがあります。そういったことが自由に、十分にできる環境を整えてあげることが、言葉と心を育てるうえでとても大切です。その意味で、どの子にとっても手話は重要と考えています。

私も、以前は口話のみで指導をしていました。口話で育った子どもたちも、大きくなるとほとんどの子が手話を身に付けていきます。社会に入り、壁にぶつかった時に、悩みや苦しみを分かち合える同じハンディをもった仲間の存在は、非常に重要です。仲間たちと本音で語り合い、壁を乗り越える力を身に付けていく。教員や保護者、聞こえる立場の私たちには分かり得ないことが多くあります。同じ仲間だからこそ分かり合えるのですね。そのふれあいの場の重要性を、卒業生の姿から教えてもらいました。

日本の社会で生活するためには日本語の獲得はとても大事なことです。ろう学校も、ずっとその課題に向き合って苦しんで頑張っているところですが、まだまだ課題があります。何より、一人一人のお子さんの状況に応じた、丁寧なかかわりが大事であると思っています。抽象的な言い方しかできませんが、他に解決の方法はないと思います。

基本的には、手話も大事、日本語も大事と考えた時に、どちらの言語もその時々に応じて使い分けていけると良いと思います。音声を伴うか伴わないか、それぞれの状況に応じて考えればいい。どちらの言語も自由に使い分けられるような成長をしてもらえたらいいと思っています。

手話を身に付けるためには、子どもたちが手話と出会うことが重要で、このしゅわまるの場が一つのきっかけになればいいと思っています。子どもたちと一番かかわりがあるのは親御さんです。お父さんやお母さんが少しずつ手話を使ってお子さんと触れ合うと、それによってお子さんが手話に興味をもっていきます。親御さんが手話を使うことは、子どもたちの手話獲得にとても大きな力になります。その意味で、しゅわまるタイムの充実とともに、しゅわサロンの場で、保護者の皆様に、手話やろう者とどのように出会ってもらうかについて、今後も工夫を重ねていくことが必要だと思っています。

古石篤子 (慶應義塾大学名誉教授・しゅわまる運営委員)

私からは、ろう教育ではなく、言語学、言語政策の立場からしゅわまるの意義についてお話ししたいと思います。神奈川県が2020年度から公的資金をつけて「聴覚障害児の手話言語獲得支援事業」を開始しました。これは画期的なことです。都道府県レベルで、同様の事業を実施しているのは、大阪府だけです。市レベルでは、来年度からいくつか始まるようですが。

この事業は手話言語条例に基づいたものですが、神奈川県手話言語条例自体も、県レベルでは全国で2番目に制定されました。この条例は議員提案でできたもので、鳥取県のように知事の理解があって始まったわけではなく、県議員の声からできたというのが特徴です。しゅわまる活動の開始に至った経緯も、議員と県の職員のお力が大きかったということを最初に申し上げたいと思います。これはとても素晴らしいことです。

聞こえない、聞こえにくいお子さん、人工内耳装用児もふくめ、手話との出会いは非常に重要であると考えています。0~3、4歳が第一言語獲得の重要な時期と言われています。この時期に、自分がよくわかる言葉に出会う、そういう経験をするのがとても重要なことで、この経験の有無により将来にわたって、自分が本当に理解できているのかどうか自信が持てない状況が続いてしまう可能性があります。わかる経験、コミュニケーションできる経験を小さいときにすることが、子どもの一生に大きく影響を与えると考えています。

不幸なことに、しゅわまるのスタートがコロナの感染拡大時期に重なってしまいました。生きた人間同士のやり取りをする機会が少なかった、これは、言葉の獲得から見ると致命的なことです。例えば、テレビの音声の前に子どもを置いておくだけでは、言葉は獲得できません。生きた人間とのやり取りが必須です。インプットだけすればいいわけではないのです。

ネイティブの手話話者=ろう者、また同じ年代の仲間たちとのやり取りが少なかったのはとても残念なことですが、その分、家族との関りが重要になりました。アンケートからもわかるように、ご家族が手話の獲得の重要性に気づき、成人ろう者をロールモデルとして自分の子どもたちの将来を重ね合わせることができたのは、重要なことだったと思います。

以下、3点申し上げます。

1点目。アンケートから、保護者の、ろう者や手話に対する見方に大きな変化があったということがわかりました。これは画期的なことです。子どもが聞こえないということは、その子の数ある特徴の一つである、ダンスが上手とか、書道が上手とか、人に配慮ができるとか、そういった特徴の1つとして「聞こえない」ということを捉えることができれば、適切な障害認識を持つことができます。そしてそれが子どもの自己肯定感、安心感につながると思います。家庭を基地として、自分が安心できる場所を持ち、そこから飛び出していける力を持つことができるでしょう。

2点目。子どもが「わかる」ということを経験できるということが大切です。「わかる」を理解すると、次に「わからない」ことがどういうことかわかる。そして、わからないときには、自分で尋ねることができるようになることが重要です。

3点目。人工内耳装用が増えていますが、音に対する感覚は子どもによって違うと耳 鼻科医は言っています。ある程度成長しないとその子の感覚がどうかということははっ きりしないかもしれません。ですから就学以降、自分の言葉として何が適切かを自分自 身で選べるようにするためにも、小さいときに手話という言語に触れていてほしいと強 く思っています。

高濱佑月楓 (しゅわまるスタッフ)

スタッフとして子どもたちと接していると、ろうの子どもたちは、本当に「見る力」に長けていると感じます。初めて会ったときは警戒している様子ですが、次に会う時にはもう手話を理解しています。ろう児がろうの大人に会うことは、本当に大切な経験なのだと思いました。私が子どもの時は、大人のろう者に会う機会はとても少なかったので、それを考えても、このしゅわまるのような場はとても大切だと感じます。交流することによって、子どもたちの人間性が豊かになる、また手話という言語を身に付けられるということはとても大切だと思います。

学校では、音声や補聴器、人工内耳などを活用するかもしれません。でもそれとは別に、手話という言語を身に付けることはとても重要だと思います。ですので、神奈川に住むろう児がもっともっとしゅわまるに参加し、たくさんの人とふれあう機会が作れればいいなと思います。しゅわまるは、たくさんのスタッフや県の方の協力で成り立っています。この場に参加できていることをとてもうれしく思います。

私の両親は聴者で、私と妹がろう者です。家庭内では手話でコミュニケーションしています。面白いことに、家族と喧嘩をする時に、自分の言語は何か分かるんです。母と喧嘩で言い合いになるとき、私は手話、母は音声を使います。自分の思いがあふれた時には、私は手話を使うんだと気づくことがたびたびありました。なので、自分の思いを伝えられる言語を持つことはとても大切だと思います。先ほど古石先生から、「わかること」「わからないこと」が「わかること」が大事というお話がありましたが、これには大変共感します。

私は、自分には音声で話すことは合わないと思い、補聴器を使わず、手話を選んで生きてきました。ろうの子どもたちにとって、しゅわまるへの参加が、自分に何が必要なのかを判断できるきっかけになればいいと思います。

近年、大学で学ぶろう者も増えています。これからもっと増えるといいなと思っています。

ゲストコメント

河﨑佳子(神戸大学教授・大阪府乳幼児期手話言語獲得支援事業「こめっこ」アドバイザー)

みなさんこんにちは。神戸大学で教員をしています。臨床心理学が専門です。臨床心理士、公認心理士として、30年ほど前にきこえない人に出会いました。

きこえないことにより何らかの心理的な困難を体験し、あるいは精神疾患を伴うことになった方の背後に、手話を取り上げられて、あるいは遠ざけられて育ったという経験が共通してあることに気づきました。それはとてもショックなことでした。心理的な健康という視点から見れば、なぜ自然言語をとりあげるのか。赤ちゃんの時から、これがあればコミュニケーションできる、通じ合える体験ができるはずのことばを遠ざけるのか。訳が分からないと思いました。

しかし当時はまだ、ろう教育、とりわけ聴覚口話主義に基づく教育や療育の世界は、 見えない高い塀で囲まれた世界でした。きこえる人が、見よう、わかろう、知ろうとし なかった責任も大きいと思います。その後、私はろう教育について学び、手話を学びま した。そして、赤ちゃんの時から手話に接する機会を作りましょう、ママパパに、手話 で子育てする自由を認めてあげてください、と呼びかけました。正直、飛んでくる矢は 多かったです。それでも、仲間も徐々に増えて、20年くらい前には菅原先生との出会 いもありました。

その過程で体験したエピソードを『きこえない子の心・ことば・家族』という、明石書店から出した本の中に書いています。1人の心理士が出会った人々から得た学びのエッセンスを基に創作した物語です。この本は17-8年前に出したものですが、3年前に再版されました。このことは、現状が変わっていないことを意味しています。「こんな話は古い、昔のことです、今は違います」とはなっていないということです。こめっこに参加している2歳の子どもさんをもつご両親が、最近この本を読んで、「おじいちゃ

んおばあちゃんにも読んでもらった。わかってもらわなきゃと思って」と話してくれま した。

2017年にこめっこが大阪で生まれたとき、わたしは「27年間の夢が実現した」と申し上げました。そして、神奈川に講演会に呼んでもらい、お話をしたら、しゅわまるが生まれ、こんなに嬉しいことはないと思っています。講演会の後、神奈川県の議員の方々が8名大阪に来られて、私の講義を聞いてくださいました。その時、大阪府庁の福祉部自立支援課の職員も同席し、資料を全部お渡しして、神奈川に持って帰っていただきました。今日、神奈川県の方がお話しになった内容は、大阪府の考えとほとんど一致します。

しゅわまるの活動について、改めてわたしが申し上げることはありません。ろう学校の先生もスタッフにおられ、様々な意味での専門家がおられるなかで、しゅわまるは素晴らしいスタートを切られたと思って皆さまのお話を拝聴していました。

活動のビデオも事前に拝見しました。こめっこにもスタッフ研修に来てくださったこともあり、大切にしていることがとても似ている、兄弟活動だと思いました。加藤先生の素晴らしい手話と絵本よみ、いきいきした表現に魅了されました。松本先生のお人柄が伝わってくる素敵な手話サロンがありました。動物がマスクをする遊びは、ぜひこめっこでもやってみたいと思いました。しゅわしゅわしゃわー、わたしが見た時には苺がテーマでしたが、とってもいいなと思いました。あえてこの時間を作り、子どもさんとパパママが一緒に見るぞ!という時間を設けておられるのが、楽しくていいなと思いました。

アンケート結果からは、0-3 歳までの活動をどうしていくか、しゅわまるを卒業した 小学生の活動をどうしていくか、というのが課題となっていると思います。こめっこも 同じ道をたどりました。0歳~未就学児を対象に月に2回の活動が始まり、翌年からべ ビーこめっこ(べびこめ)として、ろう学校でいうと幼稚部に入る前まで0~3歳のお子さんを対象にした活動をスタートしました。これは週2回、乳幼児の手話言語獲得支援はもちろんですが、保護者の応援がむしろ中心です。ここに来るとママが笑顔になる、楽しいね、また来るね、と帰っていける場を作る。ここで、手話に出会い、ろう者に出会い、0歳からの子どもさんに心からの笑顔を向けてかかわれる、そういう場を作りたいと思いました。参加人数が増え、スタッフ数も増え、今は活動の中心がこちらに移ってきています。今日お話ししてくださった保護者の方は、娘さんが3歳の時にしゅわまるに出会った、とおっしゃっていました。きっと、その前にもこういう場所があったらよかったな、と心から思っていられると思います。そこをしゅわまるでも展開してほしいと思います。今、しゅわまるでやっている遊びの内容は、2-3歳以上の子どもを対象にしていると思います。0-1歳を対象にすると、また違った遊びの工夫が必要だとこめっこでは学んできました。またよかったら、参考に遊びにいらしてください。

こめっこを卒業した子どもたちが「続けてきたい」と言ってくれたり、保護者からの要望があったりして生まれたのが「もあこめ」(※もっとこめっこの意)です。そして、「卒こめ」後もずっと続けてこめっこに来るかと思うとそうでもなく、インテグレーションした学校に適応してそこで友達ができ、小1.小2と、こめっこから離れていくんです。児童期の前半は、走り回ったりカード集めしたりといった遊びの中で、きこえない子どももそこにいられるのですが、小3小4になり、会話が中心になってくると、またこめっこ(もあこめ)に戻ってくるというような気配をちょうど今感じているところです。

こめっことしゅわまる、べびこめやもあこめの活動でも兄弟としてやっていけたらな と願っています。

資料集

1.	しゅわまる交流会についてのアンケート	
	(2022 年 2 月オンラインにて実施))
*	て しゅわまるの交流会を始めて 1 年 3 ヶ月経ちます。これまでも毎回の交流会の後にアンケーをお願いしておりましたが、今回はこれまでの活動全体を振り返っての皆様のお考えを伺い 今後に生かしたいと思います。ご回答は無記名になっておりますので、忌憚のないご意見を いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。	•
I.	聴覚障がいのお子さんとご家族について	
1.	聴覚障がいのお子さんについて教えてください。	
	(1) 年齢(2021年4月1日現在): 年齢(歳)	
	(2) ふだん通っている教育機関等(複数回答も可):	
	a 幼稚園 b 保育園 c ろう学校幼稚部 d ろう学校乳幼児相談 e 療育機関(難聴)	
	f その他	
	(3) 補聴の方法:	
	a 補聴器 b 人工内耳 c 補聴器と人工内耳 d 使用していない	
2.	きょうだいはいますか。: a いない b1人 c2人 d3人	
	きょうだいもしゅわまるに参加していますか。: a はい(人) b いいえ	
3.	家族に聴覚障がい者はいますか。: a いない b いる(具体的に)
4.	聴覚障がい者の知人·友人はいますか。: a いない b いる(具体的に)

- Ⅱ. しゅわまる活動(しゅわまるタイム・しゅわサロン)について
- 1. しゅわまる参加のきっかけは何ですか。
- 2. 参加するにあたり期待したことはどんなことですか。
- 3. これまでしゅわまるに何回参加しましたか。:

対面(回)、オンライン(回)

- 4. 頻度(月2回)についてどう思いますか。: a ちょうど良い b 多い c 少ない
- 5. オンライン開催についていかがでしたか。
- 6. しゅわまる活動(しゅわまるタイム・しゅわサロン)で取り入れてほしい内容があればお書きください。
- III. 手話使用について
- 1. ご家族の中に手話を習っている方はいますか。: a いない b いる(具体的に誰?) 「いる」と答えた方は、しゅわまるが手話を習い始めたきっかけになっていますか。:
 - a なっている b なっていない
- 2. しゅわまるに参加して、お子さんは手話を使うことが増えましたか。:
 - a 増えた b 変わらない c 減った
- 3. しゅわまるに参加して、保護者の方は手話を使うことが増えましたか。:
 - a 増えた b 変わらない c 減った
- 4. しゅわまるに参加して、きょうだいは手話を使うことが増えましたか。
 - a 増えた b 変わらない c 減った
- 5. しゅわまるに参加して、家族でコミュニケーションの機会は増えましたか。
 - a 増えた b 変わらない c 減った
- 6. しゅわまるに参加して、手話の魅力や意義を感じることができるようになりましたか。
 - a 感じる b 変わらない c 感じない

IV. その他

1.	しゅわまるに参加してお子さんに何かる	変化はありましたか。
	a あった() b 特にない
2.	しゅわまるに参加して保護者ご自身に	何か変化はありましたか。
	a あった() b 特にない

3. しゅわまるに対しての感想やご希望をお書きください。どのようなことでもかまいません。

2. しゅわまる活動実施状況

<u> 令和 2 (2020) 年度</u>

				参加	数		内容		
回	開催日時	会場・開催方法	家族	聴覚 障害 児	兄弟 姉妹	保護 者	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』	
1	11月7日 (土) 13:00 15:00	あーすぷらざ 対面	8	8	4	14	◇あいさつ ◇あんぱんまんリズム遊び ◇絵本の手話語り「だるまさんが」・「なーらんだ」 ◇作って身体を動かしてあそぼう(活動名:果物狩り)	◇スタッフミニトーク ◇質疑応答・意見交換 ◇ミニ手話教室	
2	13:00 1月9日 (土) 2 15:00	オンライン(ライブ配信)	6	6	5	10	◇あいさつ ◇あんぱんまんリズム遊び ◇絵本の手話語り「だるまさんの」 ◇コマを作って身体を動かしてあそぼう	◇スタッフ講演(松本大輔) ◇しゅわレッスン ◇保護者フリートーク	
3	1月23日 (土) ~ 15:00	オンライン(ライブ配信)	10	10	6	13	◇あいさつ ◇名前よび ◇あんぱんまんリズム遊び ◇絵本の手話語り「だるまさんと」 ◇作って身体を動かしてあそぼう「せつぶんの豆まき」	◇スタッフミニトーク ◇しゅわレッスン ◇保護者フリートーク	
4	2月13日 (土) 13:00 	オンライン(ライブ配信)	11	11	7	14	◇あいさつ ◇名前よび ◇マスクちょうだい (やりとり遊び) ◇あんぱんまんリズム遊び ◇しゅわ・しゅわ・しゃわー! (しゅわ遊び) 「お天気」 ◇絵本の手話語り「うしろにいるのだあれ」 ◇作ってあそぼう「フルーツョーグルト」	◇スタッフミニトーク ◇フリートーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
5	2月27日 (土) 13:00 	オンライン(ライブ配信)	12	12	7	16	◇あいさつ ◇名前よび ◇マスクちょうだい (やりとり遊び) ◇あんぱんまんリズム遊び ◇しゅわ・しゅわ・しゃわー! (しゅわ遊び) 「お天気」 ◇絵本の手話語り「おいしいひなまつり」 ◇作ってあそぼう「おひなさま・おだいりさまを作ろう」	◇スタッフミニトーク ◇フリートーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
6	3月13日 (土) 13:00 ~ 15:10	オンライン(ライブ配信)	12	14	6		◇あいさつ ◇名前よび ◇マスクちょうだい(やりとり遊び) ◇あんぱんまんリズム遊び ◇しゅわ・しゅわ・しゃわー! (しゅわ遊び) 「乗り物その1」 ◇絵本の手話語り「おおきなかぶ」 ◇作ってあそぼう「双眼鏡」	◇スタッフミニトーク ◇フリートーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム「生活の中で使う手話」	

Γ			会場・開催方法		参加	数		内容			
	回	開催日時		家族	聴覚 障害 児	兄弟 姉妹	保護 者	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』		
	7	3月27日 (土) 9:00 ~28日 (日) 17:00	動画配信 (YouTube)	12	14	5	16		◇スタッフミニトーク ◇質問への回答コーナー ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム「生活の中で使う手話」		
_			延べ数	71	75	40	99		·		

令和3(2021)年度

					加数			内容		
E	開催日時	会場・開催方法	家族	聴覚 障害 児	兄弟 姉妹	保護者	その 他	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』	
	1 5月8日 (土)	動画配信 (YouTube)	7	7	5	9		◇めんはんまんリスム遊ひ ◇鈴木の毛紅冠リ「キギス + キ ノ ホジュ	◇スタッフミニトーク ◇質疑応答・意見交換 ◇ミニ手話教室	
	2 5月22日 (土)	動画配信 (YouTube)	14	14	6	18		◇めんはんまんリスム班() ◇鈴木の毛手転り「だぇまさんの」	◇スタッフ講演(吉田麻莉氏) ◇しゅわレッスン ◇スタッフミニトーク	
	3 6月12日 (土) 9:00~ 12:00	あーすぷらざ 対面・オンライン(ライブ配信)	8	8	3	11		◇魚がぴょんリズム遊び	◇スタッフミニトーク ◇しゅわレッスン ◇保護者フリートーク	
	4 6月26日 (土) 9:00~ 12:00	あーすぷらざ 対面・オンライン(ライブ配信)	10	10	5	14		◇ハンタたいそう ◇魚がぴょんリズム遊び ヘー・セー・トロー・「東郊京楽」	◇スタッフミニトーク ◇フリートーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
	5 7月10日 (土) 9:00~ 12:00	あーすぶらざ 対面・オンライン(ライブ配信)	13	13	7	18		◇ハンダたいそう ◇毎√5パェノリブノ塔が	◇スタッフミニトーク ◇子どもの手話ネーム決め ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
	6 7月24日 (土)	動画配信 (YouTube)	19	19	9	38		◇魚がぴょんリズム遊び	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム「夏休みの楽しみ方」	

				参	加数			内容		
回	開催日時	会場・開催方法	家族	聴覚 障害 児	兄弟 姉妹	保護者	その 他	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』	
7	9月11日 (土)	オンライン(ライブ配信)	8	8	3	11		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇パン屋さんでお買い物リズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「味覚」 ◇絵本の手話語り「おつきさまこんばんわ」 ◇作ってあそぼう「おだんご」	◇スタッフミニトーク「先輩保護者にインタビュー」 ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
8	9月25日 (土)	動画配信 (YouTube)	20	20		40		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇パン屋さんでお買い物リズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「洗う」 ◇絵本の手話語り「パパ、おつきさまとって」 ◇作ってあそぼう「フリスビー」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
9	10月9日 (土)	動画配信 (YouTube)	8	8	3	11		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇パンをさんでお買い物リズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「お誕生日」 ◇絵本の手話語り「おべんとうパス」 ◇作ってあそぼう「おいも作って、おいもほり」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
10	10月23日 (土)	動画配信 (YouTube)	20	20	9	40		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇パンダたいそう ◇パン屋さんでお買い物リズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「秋に関するもの」 ◇絵本の手話語り「どうぞのいす」 ◇作ってあそぼう「ハロウィンバッグ」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
11	11月13日 (土)	動画配信 (YouTube)	20	20	9	40		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇パンダたいそう ◇しゅししゅわシャワー「いろ」 ◇絵本の手話語り「いろいろ列車」 ◇作ってあそぼう「色あそび」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	

		参加数					内容				
叵	開催日時	会場・開催方法	家族	聴覚 障害 児	兄弟姉妹	保護者	その 他	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』		
1:	? 11月27日 (土)	動画配信 (YouTube)	11	11	7	18		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇食いしんぼうのゴリラリズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「冬に関するもの」 ◇絵本の手話語り「大きなかぶ」 ◇作ってあそぼう「クリスマスツリー作り」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム		
1;	3 12月11日 (土)	動画配信 (YouTube)	23	23	11	46		◇あいさつ ◇名前よび ◇パンダたいそう ◇食いしんぼうのゴリラリズム遊び ◇しゅわしゅうシャワー「冬の食べ物」 ◇絵本の手話語り「やさいさん」 ◇作ってあそぼう「やさいスタンプ」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム		
14	12月25日 (土)	神奈川県聴覚障害者福祉センター 対面	12	12	7	18		◇あいさつ ◇クリスマスツリー点灯 ◇クリスマスツリー点灯 ◇スタッフ劇「真っ赤なお鼻のトナカイさん ◇サンタクロースのプレゼント ◇身体を動かしてあそぼう ◇絵本の手話語り「ぐりとぐらのおきゃくさま」 ◇サンタクロースと一緒におどろう	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム		
1!	5 1月8日 (土)	動画配信 (YouTube)	24	24	11	48		◇あいさつ ◇名前よび ◇どうぶつダンス ◇どうぶつダンス ◇しゅわしゅつリズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「お正月」 ◇絵本の手話語り「はんぶんこ」 ◇作ってあそぼう「コマ」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム		
10	1月22日 (土)	動画配信 (YouTube)	24	24	11	48		◇あいさつ ◇名前よび ◇どうぶつダンス ◇どうぶつダンス ◇とったれの?リズム遊び ◇しゅわしゅわシャワー「節分」 ◇絵本の手話語り「ねずみくんのチョッキ」 ◇作ってあそぼう「鬼」	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム		

				参	加数			内容		
[開催日時	会場・開催方法	家族	聴覚 障害 児	兄弟 姉妹	保護者	その 他	『しゅわまるたいむ』	『しゅわサロン』	
1	7 2月12日 (土)	動画配信 (YouTube)	24	24	11	48		◇マスクだれの?リズム遊び	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
1	3 2月26日 (土)	動画配信 (YouTube)	24	24	11	48		◇マスクだれの?リズム遊び	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
1	3月12日 (土)	動画配信 (YouTube)	24	24	11	48		◇マスクだれの?リズム遊び	◇スタッフミニトーク ◇本日のポイント説明 ◇手話学習タイム	
2	3月26日 (土)	報告会 対面・オンライン(ライブ配信)					120	◇あいさつ ◇しゅわまる運営委員・スタッフより活動報告 ◇トークセッション ◇河﨑先生とオンラインを繋いでミニ講演 ◇連絡事項		
		延べ数	313	313	139	572	120			

令和 2~3 (2020~2021) 年度 神奈川県聴覚障がい児等手話言語獲得支援事業

「しゅわまる」活動報告会報告書

2022年9月発行

一般社団法人神奈川県聴覚障害者連盟

2021 年度しゅわまる運営委員会

【お問合せ】 しゅわまる事務局

〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢 933-2 神奈川県聴覚障害者福祉センター 2F

TEL: 0466-26-5467 / FAX: 0466-26-5454

shuwamaru@gmail.com

しゅわまるホームページ https://shuwamaru.org/

